

はじめに — NPO 会計担当者の役割 —

「会計」とは、日々の記帳と決算のことです。期末を迎えたら、すべてのNPO 法人が決算を行い、会員・寄付者・助成団体・協働事業者・借入先等の支援者に、預かった資金をどのように使ったのか、わかりやすく報告します。NPO 法人には、寄付金や助成金等、使途が決められている資金も多く、提供者はその詳細な報告を見て、拠出した資金がどのように活用されたのかを知り、将来再び協力するかどうかを判断します。

このように外部への報告を目的とした会計を「財務会計」といいます。資金調達を進めるためには、適切な会計報告が必要です。自分の姿を知らなければ他人に伝えることはできません。会計担当者は、事業をよく知ることが何よりも重要です。経理担当者は、会計担当者の指示に従って、新たな勘定科目を設定する等、より細かな実務作業を行います。一人で両方の役割を兼ねることも少なくありません。

さて、営利企業の会計では、損益計算書で計算される「利益」が最も重要視されます。一方、NPO 法人は利益の分配を目的としないため、活動計算書で計算される「正味財産増減額」は、それほど重要ではないと思われるかもしれませんが、しかし、正味財産の減少が続けば、事業の継続は困難です。活動の原資は必要で、繰越金を正しく把握することも会計の大切な役割です。このように、内部の意思決定や評価に用いる会計を「管理会計」といいます。

また「税務会計」もおろそかにできません。NPO 法人では、法人税が課税される事業は限定的で、該当する事業としない事業が混在します。課税事業を行っている場合は、課税されない事業と区分して経理を行わなければなりません。

以上のように「財務」、「管理」、「税務」どの面から見ても、会計は極めて重要です。特に、将来、認定NPO 法人になりたい団体にとっては、会計・税務を適切に行うことが必須条件です。会計担当者の役割の大切さを、団体内で共有しましょう。

本冊子は、2012年4月の改正NPO 法で新しくなった会計報告について、作成のポイントを紹介します。実務担当者からよく受ける質問を選び、多くの事例に学びました。運営の改善、支援者の拡大、活動の発展に会計報告をさらにお役立て下さい。